特集

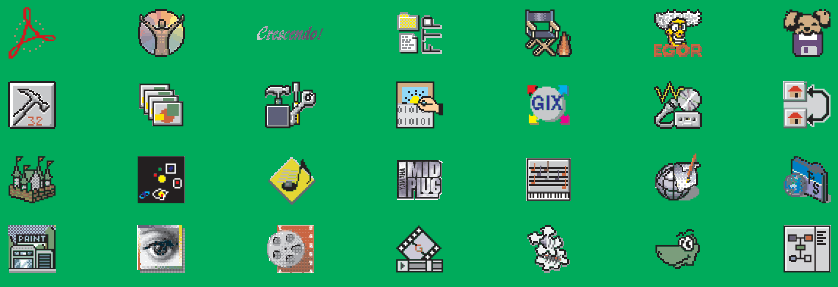
いますぐできる！ ワンランク上のホームページ作成術

■執筆協力　川添 歩（はじめに・動画編）／藪 暁彦（音声編）／滝口幸子（画像編・小技編）

インターネットマガジン編集部 編

▶本誌で紹介しているソフトでCD-ROMのマークがついているものは付録のCD-ROMに収録されています。くわしくは各関連ページをご覧ください。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D



インターネットに接続できたら、ネットサーフィンもいいけれど、やはり自分でホームページを作ってみたいもの。今やHTMLを覚えなくても、ホームページ作成ツールを使えば、ある程度格好がつくホームページが簡単に作れるようになった。しかし、とりあえずはホームページを作ってみたものの、何かものたりないと思っている人が多いのではないだろうか。

たとえば、タイトル部分を動かしたり、もっときれいな画像を表示させたりしたいときはどうすればよいのだろうか？ 音の出るページを作りたいときはどうしたらいいのだろうか？

そんな要望に答えるべく、今号では高価なツールや特別な知識がなくてもできるワンランク上のホームページの作り方を紹介しよう。HTMLをマスターする前に、より簡単な方法でいろいろな素材を集めた楽しいホームページを考えるほうがCOOLなホームページ作成への近道ではないだろうか。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

HTML

が書けなくても COOLなホームページが作れる!

誰でも簡単にホームページができる ホームページ作成ツールを使ってみよう

これまで、ホームページを作るにはHTMLを覚えて面倒なタグ入れをしなければならなかった。しかし、最近になってワープロのような操作で楽にホームページを作れるツールが出そろってきた。

ホームページの作成にはHTMLという特別な書式でテキストファイルを作成する必要があり、HTMLでホームページを表現するには、たくさんのタグと呼ばれる命令を覚えなければならなかった。またそれを覚えたとしても、タグを使ってホームページを作成していく作業はたいへん面倒なものだ。

ワープロで書体を指定したり、図を貼り込んだりするように、もっと簡単にホームページを作れたらいいのにと考えるのは、HTMLを覚えるのに抵抗がある初心者ばかりでなく、毎日のようにホームページを作成しているプロでも同じことだ。

最近、ようやくそうしたホームページ作成ツールがいくつか出そろってきたので、これからホームページを作成していく人にとっては注目すべき状況になってきた。

●

先鞭をつけたのは、95年秋に英語版が発売され、この春に日本語版が発売されたアドビのページミルだ（マッキントッシュ用）。使いやすく、しかもひととおりの機能を備えている。

その後、こざいくウェブデザイナーという製品のマッキントッシュ版が発売された。（ウィンドウズ版は7月末発売予定。販売元：日本コダック（株）、問い合わせ先：TEL03-5488-2365、定価：198,000円）。これはページミルがまだ対応していない機能にも対応しているほか、アドビが別製品として出しているサイトミルというホームページ管理ツールが持っている機能まで一部取り入れている。

また、IBMからはホームページビルダーがウィンドウズ95およびOS/2 ワープ用に発売されている。ホームページビルダーは表作成の機能など現在のページミルにはない機能もある。

また、クラリスからはクラリス・ホームページという、ホームページ作成ツールが発表されている。大御所のネットスケープからはネットスケープナビゲーターゴールドという、ホームページ作成の可能なナビゲーターが近いうちに発売される予定だ。

そのほかに、マイクロソフト・ワードをはじめとする既存のワードプロセッサーや、QuarkXPressなどのDTPソフトウェアで作った文書をHTML形式で保存することができるようになってきている。

また、WWWからフリーでダウンロードできるHTML作成ツール（次ページで紹介）を活用するのもいいだろう。

というわけで、まったくHTMLを知らなくても、ホームページを作成できる環境はかなり整いつつある。

●

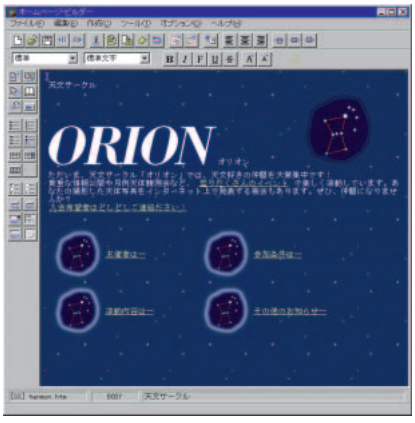
ただし、WWWやHTMLの機能の発展や拡張が非常に速いため、各ホームページ作成ツールがその新しい機能に追いつくのがなかなか容易ではない。ネットスケープナビゲーターやインターネットエクスプローラが実現できる機能をすべて使って作れるホームページ作成ツールはまだない。

また、各ツールで作ったホームページの、ツール上での見え方とブラウザーでの見え方がまるで違うということもしばしば起こる。その場合には、HTMLのテキストファイルを直接修正するよりほかない。そのため、まだどうしても基本的なHTMLの知識が必要となるのだ。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

これがホームページを簡単に作るツールだ

ホームページ作成ツールはかなり数が揃ってきているが、ここでは手軽に購入できて、使い方も簡単なソフト、ホームページビルダー（ウィンドウズ95）、アドビ・ページミル（マッキントッシュ）を紹介しよう。



ホームページビルダー

WIN OS/2

ホームページビルダーでは、文章を作成してその見出しや文字の太さなどの設定をワープロのように簡単に設定できる。

グラフィックを挿入したい場合には、ドラッグ&ドロップでページ上に配置できる。一般にホームページで使用されるグラフィックはGIFかJPEG形式だが、BMPかTIFFのグラフィックをドロップした場合には自動的にJPEG形式に変換して配置してくれるので、ユーザーはファイル形式を気にしなくてよい。

また、HTMLを直接編集する場合に非常に面倒な表作成なども、その機能がついているために難しいことを知らなくても楽に作ることができる。

そのほか、グラフィック上の部分をクリックするとリンク先にとべるようにするクリッカブルマップを作成するイメージマップエディターも備えている。ホームページ作成上で面倒な部分のサポートをひととおりしてくれる便利ツールだ。

ホームページビルダーのパッケージと基本操作画面

動作環境：ウィンドウズ95、OS/2
開発元：日本アイ・ビー・エム株式会社
問い合わせ先：TEL 0120-041992（フリーダイアル）
定価：14,800円

アドビ・ページミル 1.0J
Adobe PageMill 1.0J

MAC

ページミルには、文字の書式設定機能はもちろん、ハイパーテキストを実現するリンクの設定やグラフィックの配置など、基本的なホームページを作成する機能がひととおりそろっている。

ただし、先発ということもあって、今になってみると表の作成機能など、非常に重宝する機能がないのがややものたりない。しかし、7月にはマッキントッシュ版だけでなくウィンドウズ版も2.0が発売される予定で、2.0では、表とフレームへの対応や、アニメーションGIF、サウンドの張り付けなどの機能も持つようなので、バージョンアップを待ちながら、現在のページミルに慣れておくといいだろう。

ものたりないとはいえ、現在のページミルでも、面倒な作業を相当軽減してくれることにかわりはない。

アドビ・ページミル1.0Jのパッケージと基本操作画面

動作環境：68020以上、PPC
開発元：アドビシステムズ株式会社
問い合わせ先：TEL 092-752-5264（システムソフト）
TEL 03-3222-6841（メディアビジョン）
定価：29,800円

フリーで入手できるHTML作成ソフト・リンク集

■ **claris homepage** WIN MAC
クラリス・ホームページのウィンドウズ用とマッキントッシュ用のベータ版がダウンロードできる
http://www.claris.com/software/

■ **WindowsWorld on the Internet** WIN
ウィンドウズ用のHTML作成ソフトがダウンロードできるリンク集
http://www.windows95.com/

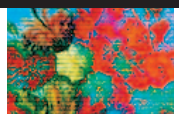
■ **Go Live** MAC
マッキントッシュ用のHTML作成ソフトがダウンロードできる
http://www.golive.de/

❶ このほかに、本誌付録CD-ROMにもHTML作成ツールが収録されている（詳しくは、347ページ「収録したソフトウェアの概要・WWW/作成ソフト」を参照）。

©1994-2007 Impress R&D

動画編

GRAPHICS



タイトルを動かしたりアニメーションを作りたい!

動くホームページといえばショックウェーブが有名だが、それ以外にも簡単に動きのあるページを作る方法がある。それがGIFアニメーションだ。

GIFアニメーションで動くホームページを作ろう!

最近、あちこちのホームページで、アイコンやグラフィックが動いているのを見かけるようになった。普通、アニメーションを作成するにはJavaやショックウェーブを使わなければならないと思っている人がいるかもしれないが、実はこれらのような難しい技術がなくても、動くホームページが作れるのだ。これはGIFが持っている機能を使って作るアニメーションで、「GIFアニメーション」という。

●

GIFアニメーションはグラフィックさえ作れれば難しいことは何もない。特別な再生環境が必要ないという点でも、特別なプログラム言語が必要なJavaや操作の難しいショックウェーブよりも使いやすい。GIFアニメーションを作るには、前もって各コマを作っておき、ツールでそれを統合するだけでいいのだ。

●

このGIFアニメーションの特長は、ホームページでグラフィックを表示するために普通に使っているGIFファイルをコマ数分用意するだけで簡単に作れること、GIFアニメーションに対応していないブラウザーで見ても、最初のコマだけは表示されること、一度すべてのコマを表示させれば、それ以降はディスクキャッシュから読んで再生されるので、利用している回線が遅くてもループするアニメーションは高速に再生されることなどである。

●

それでは、さっそくGIFアニメーションを作ってみよう。

まずは、もとになる画像を作らなければならない。それには、グラフィックソフトが必要だが、フォトショップのような高価なソフトを使用しなくても、シェアウェアのツールでもそれなりのものを作ることができる。ウィンドウズでは、ペイント・ショップ・プロ(http://www.jasc.com/pspdl.html)、マッキントッシュ用ではGraphicConverter(付録CD-ROMの「Mac→Graphic Converter」に収録)などがおすすめだ。

これでもとのアニメーションを作成したあと、それらを1つのファイルにまとめてGIFアニメーションを作る。代表的なツールには、GIF Construction Set(ウィンドウズ用)やGIF Builder(マッキントッシュ用)などがあり、以下ではその使い方を解説しているので参考にしてほしい。

デジカメで撮った写真でGIFアニメーションを作ってみよう

GIFアニメーションを作るには、なにもグラフィックソフトで絵を描かなければいけないわけではない。デジタルカメラで撮影した写真をつなげば、GIFアニメーションが作れるのだ。
たとえば、人形などの立体オブジェを少しずつ動かしながら撮影して、GIFアニメーションにすれば、WWWでオブジェが動いて見える。
また、何枚かの違う種類の写真をつなげれば、ぱらぱらとめくれる紙芝居のような効果を出すこともできる。
工夫しだいでいろいろな表現ができるので、まずは試してみよう。

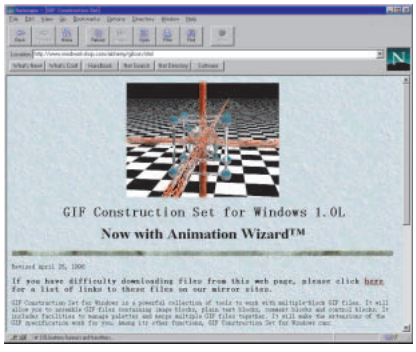
インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

GIF ANIMATION

GIF Construction Setの使い方

GIF Construction Set

ウィンドウズ用のGIFアニメーション作成用シェアウェア。このツール自体には、グラフィック作成の機能はないので、前もって複数のグラフィックファイルとして各コマを作成しておく必要がある。GIF Construction Setでこれらのコマをひとつにまとめ、再生間隔やループなどの設定をして、GIFアニメーションファイルとして書き出す。



GIF Construction Setがダウンロードできるページ
URL http://www.mindworkshop.com/alchemy/gifcon.html

1 GIF Construction Setの入手方法

GIF Construction Setは本誌のCD-ROMに収録されている。入手したら、ウィンドウズ上でSetUpを起動してインストールするだけだ。

▶CD-ROM ◎ 収録先：WIN→GIF CONST

2 GIFアニメーションを作る

図1：今回GIFアニメーションを作るのに使用したサンプル。付録CD-ROMにも収録されている。

GIFアニメーションを作成するには、まず複数のコマを作っておく必要がある。GIFアニメーション作成ツールは、それ自身ではグラフィックを作成したり編集したりする機能を持っていないから、ペイントやフォトショップなどのグラフィックソフトでアニメーションのもととなるコマを作成する。

基本的には、GIFアニメーションはパラパラマンガのようなもので、テレビのアニメーションのように、背景の上でセルを動かすのとは異なる。背景の上でキャラクターだけを動かすということもできなくはないが、多少テクニックが必要となるだろう。

もっとも簡単なのはすべて同じ大きさのグラフィックを用意しておき、それを連続して再生するというやり方なので、まずはそのようなグラフィックを用意してほしい。

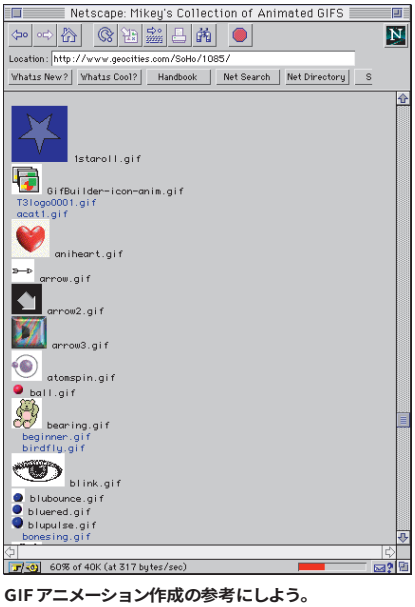
たとえば図1のようなものだ。

作成時に注意することは、GIFアニメーションに対応していないブラウザーでGIFアニメーションのファイルを表示しようとした場合、最初のコマだけが表示されるという点だ。したがって、そのようなブラウザーのことも配慮するのであれば、最初のコマに意味のあるグラフィックを入れておくべきだろう。たとえば、何もないところからキャラクターが出現するといったアニメーションだと、最初のコマに何もないので、GIFアニメーション非対応のブラウザーで見た場合、ページ上でそこだけぽっかり空間ができてしまうことになる。

また、縦横のサイズが大きいと、表示に時間がかかってしまって、なめらかなアニメーションにはならない。GIFアニメーションは、アイコンやあまり大きくないアニメーションに適している。

作成したグラフィックを、グラフィックソフトで保存する際には、GIFアニメーション作成ツールで読み込める形式になっていればよい。ウィンドウズであればBMP、マッキントッシュであればPICTでもよい。必ずしもGIFである必要はない。また、GIFで保存する場合も、透明化やインターレースの指定をしておく必要はない。これらGIFのファイルでのオプション設定はGIFアニメーション作成ツールで行うことができる。

グラフィックファイルは、順番が分かりやすいように、「ANIME1.BMP」「ANIME2.BMP」などファイル名に順番を表す数字をつけておくとよいだろう。このとき、10個以上のファイルを使うのであれば、番号が1ケタの場合でも0を加えて「ANIME01.BMP」「ANIME02.BMP」……「ANIME10.BMP」のようにファイル名をつけたほうがよい。ファイル一覧の際に、番号順でちゃんと並ぶからだ。



GIFアニメーション作成の参考にしよう。

GIFアニメーションのサンプルがあるホームページ 1
Mikey's Collection of Animated GIFS
URL http://www.geocities.com/SoHo/1085/

©1994-2007 Impress R&D

GIF Construction Setの使い方

3 GIF Construction Setに読み込む

GIF Construction Setのアイコンをダブルクリックして立ち上げると、図2のようなウィンドウが表示される。このウィンドウのリストに、あらかじめ用意したグラフィックファイルを、表示する順番に加えていく。

ウィンドウの上部左から2番目の「Insert」ボタンを押すと、何を挿入するかを問い合わせるウィンドウが表示される（図3）。

そこでImageを押す。するとファイルを選択するウィンドウが表示されるので、そこでまず最初のグラフィックファイルを選ぶ。そうするとリストに「IMAGE」という文字に続いてファイル名とサイズが書かれた行が加わる。以後、用意したグラフィックを順番にリストに加えていく。

この際、挿入するグラフィックのパレットが現在使用しているパレットと異なる場合に、図4のようなウィンドウが表示される。できるだけグラフィックを作成する時点で、1つのアニメーションGIFを形作るグラフィックはどれも同じパレットを使用するようにしておいたほうがよい。このウィンドウが表示された場合には、使用している画像によるが、「Dither this image to the global palette」を選ぶのが一番無難だろう。選んだ結果、そのグラフィックの見栄えがかなり変わってしまうようであれば、もともとのグラフィックファイルのパレットを、グラフィック作成ソフトを使ってほかのグラフィックと合わせるなどの作業をしたほうがよい。

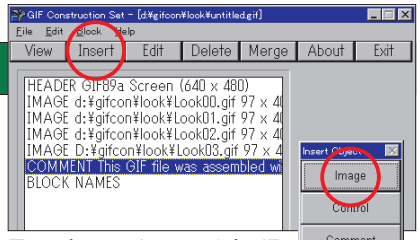


図2：グラフィックファイルを表示順に並べる

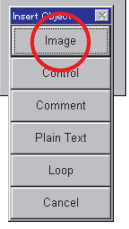


図3：「Image」をクリックしてリストに画像を追加していく

図4：「Dither this image to the global palette」を選んでパレットの種類を統一する

4 動かして確かめ、設定する

ひととおりグラフィックを読み込んだら、ウィンドウの左上の「View」ボタンを押す。画面上に今読み込んだグラフィックを連続して表示してくれるはずだ。マウスの右ボタンをクリックすれば元の画面にもどる。もし元の画像に問題があるようであれば、その画像をグラフィックソフトで編集しなおさなければならない。

スピードが適切でないというのであれば、GIF Construction Set上でその設定をする。

再びウィンドウ上部左から2番目の「Insert」ボタンを押す。そこで出てくるウィンドウで、今度は「Control」を選ぶ。するとメインのウィンドウのリストにCONTROLの行が追加される。Control Blockのウィンドウにはいくつかの設定があるが、スピードの設定は「Delay」の部分だ。ここの数字が0に近いほど再生スピードは速くなり、数字が大きいほど遅くなる（図5）。

また、このControl Blockのウィンドウでは、透明化の設定もできる。「Transparent colour」にチェックをして、透明にしたい色を右のボタンで選ぶ。2つボタンがあるが、左のボタンでは色のパレットから選ぶことになり、右では実際の画像を表示して、その部分をクリックして選ぶことになる。

さらに、用意した画像の連続再生を1回だけでなく、繰り返してアニメーションさせるにはLOOPを挿入する。さきほどと同様に「Insert」ボタンを押して、今度は「LOOP」を選ぶ（図6）。LOOPでは繰り返しの回数を指定できるが、繰り返し回数を認識しないブラウザーや、繰り返し自体を認識しないブラウザーでは指定できないことは覚えておいてほしい。

図5：Delayの数値でスピードを調整する

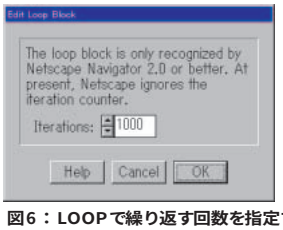


図6：LOOPで繰り返す回数を指定する

5 作成したアニメーションを保存する・WWWで表示する

「View」で確認したアニメーションが思ったとおりのものになったら、保存してGIF Construction Setは終了する。保存すると、複数のグラフィックがまとめられて、1つのGIFファイルとして作られる。

これをホームページ上で表示するには、一般のGIFグラフィックを表示するのとまったく同じようにHTMLで指定するだけだ。たとえば「Anime.gif」というアニメーションファイルであれば、

```
<IMG SRC="Anime.gif">
```

というようにHTMLに書いて、そのHTMLファイルをブラウザーで開けば、ページ上でアニメーションが表示されるはずだが、ネットスケープナビゲーターやインターネットエクスプローラ3.0のような、アニメーションGIFに対応したブラウザーでなければ表示されない。

作ったアニメーションをWWWで表示してみる

ここで作ったGIFアニメーションは付録のCD-ROMに収録されています

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

GIF ANIMATION

Gif Builderの使い方

Gif Builder

GIFアニメーション作成用のフリーウェア。グラフィック作成用の機能は持たないので、各コマのグラフィックをPICT、GIF、TIFFのいずれかの形式で用意しておく。

GifBuilderでコマを読み込み、設定をしたあとに1つのアニメーションGIFファイルとして書き出す。下記の方法でWWWから入手できる。

GifBuilderがダウンロードできるページ
URL http://iawww.epfl.ch/Staff/Yves.Piguet/clip2gif-home/GifBuilder.html

1 Gif Builderの入手方法

GifBuilderは、ftp://ftp.iij.ad.jp/pub/info-mac/gst/grf/gif-builder-032.hqx/から入手できる。ファイルサイズは369Kほど。現在は、0.4.0にバージョンアップしている。

2 GIFアニメーションを作る

193ページの「GIF Construction Setの使い方」の2を参照。

フォトショップやイラストレーターを使用すると、グラフィックの変形などをしやすいが、これらは10万円以上するかなり高価なツールだ。

それらのツールを使わなくても、シェアウェアのGraphic Coverter（本誌CD-ROM「Mac→GraphicConverter」に収録）などで、反転や回転などの加工ができる。

3 GIF Builderに読み込む

GIF Builderのアイコンをダブルクリックして立ち上げると、図1のようなFramesウィンドウが表示される。このウィンドウに、あらかじめ用意したグラフィックファイルを加えていく。

FileメニューのAdframeを選んで、ファイルを1つずつ加えていくのでもよいが、Finderで必要なファイルを複数選択して、Framesウィンドウにドラッグ&ドロップするほうがずっと簡単だろう。

加えられたグラフィックファイルは、ドラッグすれば順番を簡単に変えることができる。

たとえば、ここで使用するサンプルでは、板が左まわりと右まわりに交互に回転するので、一度使ったグラフィックを何度か使用することになる。図2はグラフィックファイルを入れたままの状態で5種類のグラフィックが入っている。この中の「Special2.PICT」を選択し、EditメニューのDuplicate Selectionで複製し、「Special3.PICT」のあとに入れる。「Special4.PICT」も同様に複製して、もともと5つのグラフィックだったものを8コマ分のアニメーションとして再生するリストにしたのが図3だ。これで、繰り返し回転するアニメーションが作成できる。

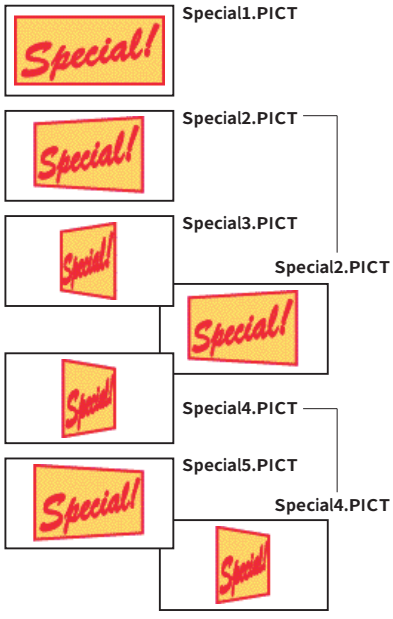


図1：Framesウィンドウ。ここにグラフィックを加えていく

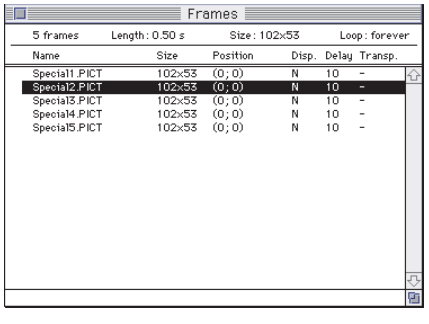


図2：5つのグラフィックをそのまま読み込んだところ

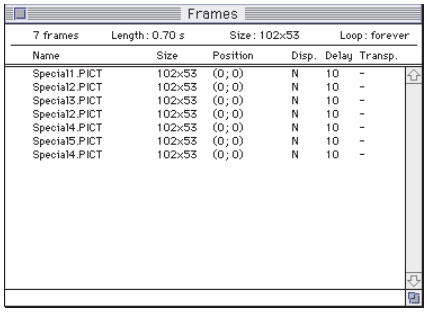


図3：複製して順序を並べ替えたもの

©1994-2007 Impress R&D

GifBuilderの使い方

4 動かして確かめ、設定する

ここでAnimationメニューからPlayを選べば、画像が再生ウィンドウに表示される。このままでは1回しかアニメーションしないので、Optionsメニュー（図4）のLoopを選び、ダイアログでForeverを選択する。これでずっと動きっぱなしのアニメーションとなる。再度Animationメニューから Startを選んで確認してみよう。Loopのダイアログでは繰り返しの回数を指定できるが、ブラウザーによっては、できないものもある。

ここでアニメーションを再生して動きをチェックする。もし、元の画像に問題があるようであれば、グラフィックソフトで編集しなおさなければならない。スピードが適切でないというのであれば、Gif Builder上でその設定をする。

コマごとにスピードの設定が可能なので、該当するコマをまず選んでから、OptionsメニューのInterframe Delayを選んで、そのコマを表示している時間を設定する（図5）。全体のスピードを上げたければ、まず全部のコマを選んで（EditメニューからSelect All）からInterframe Delayを選び、100分の1秒単位でスピードを設定する。ここで設定したからといって、ブラウザーの能力でこのとおりに再生されるとは限らないが、もっとも高速にしたければ、as fast as possibleを選んでおけばいいだろう。

Optionsメニューの Loopから上にあるオプションは、コマごとではなく作成するGIFアニメーションファイルに共通のものとなる。色数を減らしたりインターレースにする場合には、ここのオプションをチェックしておく。

またLoopより下のオプションはコマごとに設定するので、まずコマを選択してからOptionメニューを選ぶ。Framesウィンドウに表示されているオプションであれば、変更箇所をダブルクリックすれば変更できる。

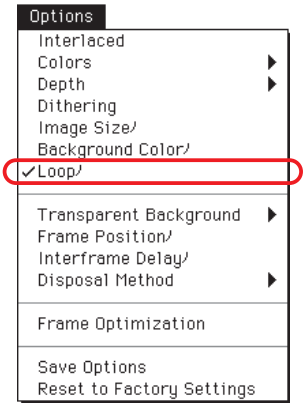


図4：Loopを選び、ダイアログでForeverを選択すると、動きっぱなしのアニメーションができる

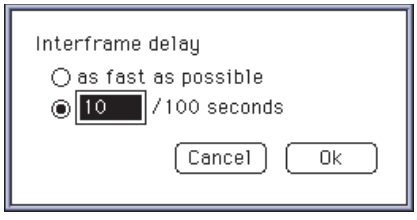


図5：OptionsからInterframe Delayを選んでアニメーションのスピードを設定する

5 アニメーションを保存する・WWWで表示する

Gif BuilderのPlayで確認したアニメーションが思ったとおりのものになったら、これを保存（FileメニューのSave）する。保存すると、複数のグラフィックがまとめられて、1つのGIFファイルとして作られる。

これをホームページ上で表示するには、一般のGIFグラフィックを表示するのとまったく同じようにHTMLで指定するだけだ。たとえば「Special.gif」というアニメーションファイルであれば、

<IMG SRC="Special.gif">

というようにHTMLに書いて、そのHTMLファイルをブラウザーで開けば、ページ上にグラフィックが表示され、アニメーションになるはずだ。もちろんネットスケープナビゲーターやインターネットエクスプローラ3.0のような、アニメーションGIFに対応したブラウザーでなければアニメーションは表示されない。

上記のHTMLのタグ指定は、実はGif Builderが作ってくれる。ファイル名が必要なので一度保存してから、EditメニューのCopy HTML Image Tagを選べば、タグ指定がクリップボードに入る。エディターでこのアニメーションを置きたいページのHTMLファイルを開いて、該当する場所でペーストすると、

<img src="Special.gif" width=102 height=53>

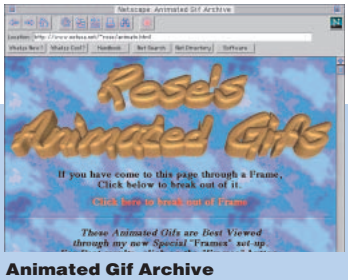
のようにサイズ指定まで入ったタグが挿入される。

ここで作ったGIFアニメーションは付録のCD-ROMに収録されています

WWWでアニメーションを表示したところ

GIFアニメーションのサンプルがあるホームページ2

「Animated Gif Archive」からはGIFアニメーションを使用することができる。ウィンドウズでは、カーソルを画像の上に置き右ボタンを押して「Save Image As」を選んで、保存先を指定する。マッキントシュでは、画像を選択したまま、デスクトップ上までドラッグ&ドロップすれば、自動的に保存できる。「GIF Animation on the WWW」のほうはリンク集なので、使用には許諾が必要。



Animated Gif Archive
URL http://www.netusa.net/~rose/animate.html

GIF Animation on the WWW
URL http://www.reiworld.com/royalef/gifanim.htm

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

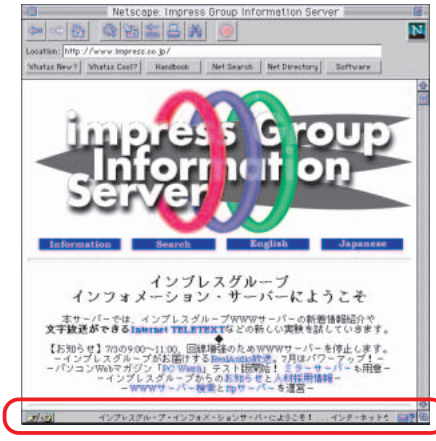
アンダーバーにテキストを流してみよう

アンダーバーのところにテキストが流れているホームページを見たことがあるだろうか。これはJavaスクリプトを用いて作られているのだが、実は、スクリプトが書けなくても、同じものが簡単に作れてしまうのだ。

方法はいたって簡単。テキストが流れるホームページを見付けたら、そこのドキュメントソースを見てJavaスクリプトの部分をコピーし、WWWで流したいテキストの部分（右のソースでは日本語で書かれている「インプレスグループ～（自動応答）まで」の部分）だけを書き換えればいいのだ。これを保存して、自分のホームページがあるファイルの中に置いてリンクを張るか、もしくはドキュメントの中に直接タグで埋め込めばいい。そうすれば、ホームページの中に流れるテキストが表示されるはずだ。

インプレスのホームページ（http://www.impress.co.jp/）にも、この流れるテキストがあるので、試してみるといいだろう。その際、コピーライトの部分も忘れずに引用すること。

また、この機能はネットスケープ固有の機能であるので、インターネットエクスプローラでは使えない。



インプレスのホームページのアンダーバーに流れているテキストとその部分のソースコード。使用する際にはコピーライトの部分「/*Copyright～」を必ず表示しよう。

```
//www.impress.co.jp/
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript">

<!-- Beginning of JavaScript Applet ----------

/* Copyright (C)1996 Web Integration Systems, Inc. DBA Websys, Inc.
   All Rights Reserved.

   This applet can be re-used or modified, if credit is given in
   the source code.

   We will not be held responsible for any unwanted effects due to the
   usage of this applet or any derivative.  No warrantees for usability
   for any specific application are given or implied.

   Chris Skinner, January 30th, 1996.

   Hacked for CNNfn by RD, Jan. 31, 1996
*/

function scrollit_r2l(seed)
{
var m1 = "インプレスグループ・インフォメーションサーバーにようこそ！";
var m2 = "・・・インターネットウォッチ、ただいま臨時受付中";
var m3 = "・・・Internet TELETEXTを使って毎日時間almニュースを読もう";
var m4 = "・・・PC Watchのテスト版を公開。随時アップデート中！";
var m5 = "・・・www.impress.co.jpでは、広告プレートを募集しています。詳しくは、ad-info@impress.co.jp（自動応答）まで";

var msg=m1+m2+m3+m4+m5;
var out = " ";
var c = 1;

if (seed > 100) {
 seed--;
 var cmd="scrollit_r2l(" + seed + ")";
 timerTwo=window.setTimeout(cmd,100);
}
else if (seed <= 100 && seed > 0) {
 for (c=0 ; c < seed ; c++) {
  out+=" ";
 }
 out+=msg;
 seed--;
 var cmd="scrollit_r2l(" + seed + ")";
 window.status=out;
 timerTwo=window.setTimeout(cmd,100);
}
else if (seed <= 0) {
 if (-seed < msg.length) {
  out+=msg.substring(-seed,msg.length);
  seed--;
  var cmd="scrollit_r2l(" + seed + ")";
  window.status=out;
  timerTwo=window.setTimeout(cmd,100);
 }
 else {
  window.status=" ";
  timerTwo=window.setTimeout(cmd,100);
 }
 else {
  window.status=" ";
  timerTwo=window.setTimeout("scrollit_r2l(100)",75);
 }
}
// -- End of JavaScript code ---------- -->

</SCRIPT>
```

ページの中にテキストを流してみよう

マイクロソフトのインターネットエクスプローラでは、いくつかの独自の機能を持っている。その1つがマーキータグだ。これはホームページの中で電光掲示板の文字のようにテキストを動かすもので、マイクロソフト社のホームページなどで見ることができる。

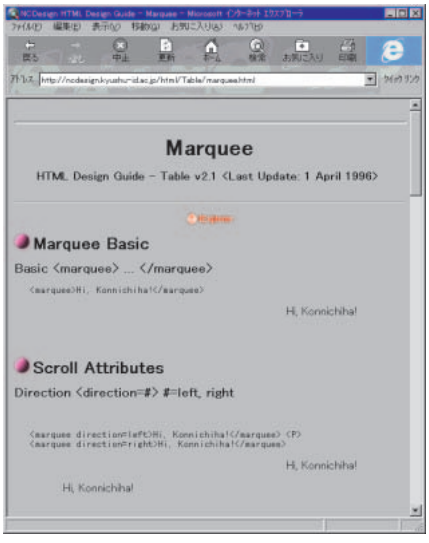
このタグのもっとも簡単な形は下記のようになる。

```
<MARQUEE>
This is the Marquee sample.
</MARQUEE>
```

流れる形式（BEHAVIOR）として、常時現れて流れては消える"SCROLL"、現れて流れて止まる"SLIDE"、はしまで流れて反対方向に戻る"ALTERNATE"が選べる。また流れる幅や方向、背景色、ループの回数、スクロールの速さなどもオプションで設定できる。

```
<MARQUEE  BGCOLOR="#FFFD5E"
BEHAVIOR="SCROLL" WIDTH="280"
BORDER="0" SCROLLAMOUNT=10
SCROLLDELAY=5>
This is the Marquee sample. Internet Magazine.
</MARQUEE>
```

ネットスケープナビゲーターなどでは対応していないので、インターネットエクスプローラでしか見られないが、マーキータグに対応していないブラウザーでは、このタグだけを無視してテキストがそのまま表示される。



■関連情報

NCDesign HTML Design Guide - Marquee

URL http://ncdesign.kyushu-id.ac.jp/html/Table/marquee.html

©1994-2007 Impress R&D

動画編

ADVANCED TOOLS

これがもっと複雑なアニメーションを作るツールだ

より複雑な動きをさせたりインタラクティブなアニメーションを作ったりしたい場合にはShockwave for Directorの出番だ。

Shockwave for Directorは、Directorで作成したアニメーション（普通Directorでは「ムービー」と呼ぶ）をホームページ上で再生するための拡張機能だ。したがって、ショックウェーブで再生するアニメーションはDirectorで作る必要がある。

Directorで作られた作品は1つのファイルになるが、そのままではサイズが大きくなるので、Afterburnerというツールを使って圧縮してインターネットに載せる。それをHTMLで指定しておけば、ショックウェーブのインストールされたブラウザーで見ることができる。

●

Macromedia社のDirectorは、ほとんどのCD-ROMマルチメディアタイトルの制作に使われている、どちらかというとプロ向けの高度なソフトウェアだ。価格も188,000円とそれなりにする。

もちろん、プロ向けだからといって一般の人が使っていけないわけではない。

DirectorではGIFアニメーションのようなパラパラマンガではなく、背景の上に動かすもの（キャストという）を配置し、その動きを指定したり、あるコマで音や音楽を鳴らしたり、ボタンを作ってユーザーがそれを押して違う場面を登場させたりといった複雑なことができる。

したがって、一度使い方を覚えてしまえば、単なるアニメーションばかりでなく、アイディア次第でゲームのようにユーザーの反応によって動作を変えるインタラクティブな作品を作ることもそれほど難しくはない。

●

とはいえ、複雑なことをすればするほど、Lingoというスクリプトやさまざまなテクニックを覚えなければならないので、使いたい人はそれなりの覚悟と豊富なアイディアを持っている必要がある。

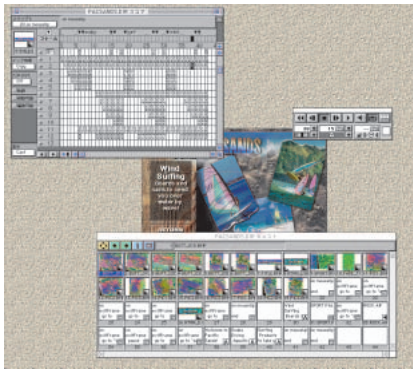
ショックウェーブのサンプルアニメーションを集めた素材集『道具箱』
定価：5,800円
販売：（株）データクラフト
問い合わせ先：TEL 011-707-7780

Director

WIN MAC

Macromedia社のDirectorでは、インタラクティブなアニメーションを作成することができる。作成したアニメーションは、ネットスケープなどのブラウザーで、ショックウェーブのプラグインを使って再生することができる。

URL http://www.macromedia.com/software/dms/index.html

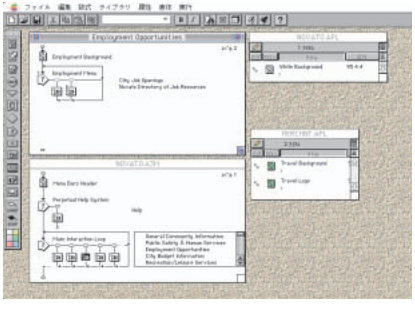


Authorware

WIN MAC

AuthorwareはMacromedia社のプレゼンテーション作成ツール。Authorwareで作成したプレゼンテーションは、Shockwave for Authorwareプラグインを使ってネットスケープなどのブラウザー上で表示、再生することができる。

URL http://www.macromedia.com/software/ais/index.html



Adobe Premiere

WIN MAC

PremiereはQuickTimeおよびVideo for Windowsのムービーを編集したり作成したりするソフト。Premiere 4.2 For Windowsでは、VDO live用のムービーも作成することができる。QuickTimeムービーをホームページ上で再生させるにはQuickTime再生用プラグインをブラウザーにインストールする。

URL http://www.adobe.com/prodindex/premiere/main.html
URL http://quicktime.apple.com/qt/sw/sw.html

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

Egor The Animator

WIN

Sausage Software社の開発したツールで、プログラムがなくてもアニメーションを作成してJavaアプレットにすることができる。GIFアニメーションを作るのと同じような方法でできるので、絵さえ用意できれば、誰でも簡単にJavaによるアニメーションが作れる。下記のURLで使用期間限定のプログラムを入手できる。

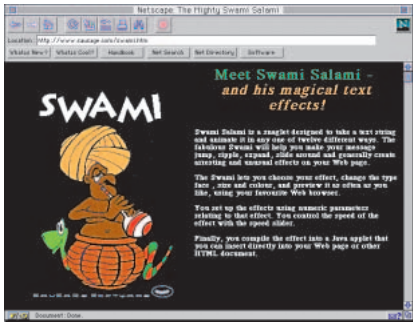
URL http://www.sausage.com/

SWAMI

WIN

同じくSausage Software社の開発したツールで、さまざまなビジュアル効果を加えてテキストを動かすJavaアプレットをプログラミングの知識なしで簡単に作成できる。ビジュアル効果としては、スクロールさせたり、ヘビのような動きをさせたり、バウンドさせたり、映画のスタッフロールのようにしたりといった多彩な表現が可能で、スピードなども調節できる。Sausage Software Home Pageから使用期間限定のSWAMIプログラムを入手できる。

URL http://www.sausage.com/

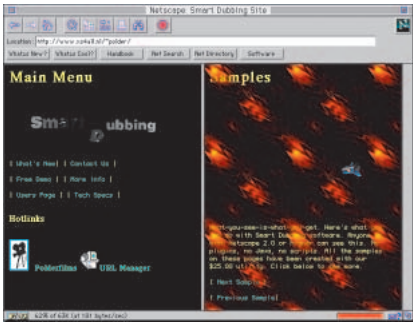


Smart Dubbing

WIN MAC

QuickTimeムービーはAV機能のあるマッキントッシュで容易に作成できるが、ホームページ上でQuickTimeムービーを見せるには、見る側のブラウザーにQuickTimeプラグインが入っている必要がある。GIFアニメーションであればプラグインの必要がないので、QuickTimeとして作成した映像をGIFアニメーションにするためのツールがこれ。GIF化の方法とサンプルを下記のURLで見ることができる。

URL http://www.xs4all.nl/~polder/



マクロメディア社　エンジニアリング担当上級副社長
ノーム・マイロウィッツ

聞き手：蔵 暁彦

果てしなく増幅し続ける減衰知らずの衝撃波 ショックウェーブ

去る6月11日と12日の2日間、東京・高輪の新高輪プリンスホテルでMacromedia Conference & International Roadshow '96が開かれた。このショーのために来日した同社エンジニアリング担当上級副社長ノーム・マイロウィッツ氏に、ショックウェーブの今後について話をうかがった。

ネットスケープ2.0のプラグイン第1号として登場したShockwave for Directorだが、今後あらゆるメジャーなブラウザー用のショックウェーブが登場するという。

「ネットスケープ社と共同でプラグインAPIの開発を進めていたから、最初にできたのがネットスケープ版だった。それだけのこと。インターネットエクスプローラやモザイク、ネットマネージ、オラクル・パワーブラウザー、サイバードッグなど、メジャーなブラウザーにはすべて対応する予定です」

ディレクター対応版のあと、フリーハンドやオーサウェア版ショックウェーブがリリースされたが、それで終わりというわけではなかった。マクロメディア社からは、3Dグラフィックツールの Extreme 3D、サウンド編集ツールのSoundEdit 16が発売されているが、これらのツールに対応するショックウェーブの開発も予定されている。なんだかややこしい話だが、ショックウェーブとは同社のデータ圧縮技術の総称だったようだ。

マクロメディア社が開発したツールは、もともとローカルで見たり聞いたりするデータを編集するためのものだった。それをネットワーク対応にするには圧縮技術が不可欠で、その技術の名称がショックウェーブだと考えればすっきりする。

アメリカではディレクター5がリリースされ、これに対応するショックウェーブベータ版のリリースも始まっている。新しいバージョンはパフォーマンスが大幅に改善され、ネットワーク対応のLingoコマンドが追加され、QuickTimeムービーも使えるようになった。正式版の1日も早いリリースが期待されるところだが、それで満足するのは早い。未来のショックウェーブは、ストリーム対応になる予定だというのだ。

「まだ具体的な計画があるわけではありませんが、データを複数のチャンク（かたまり）にわけてロードしながら再生できるようにする予定です」

将来の計画に期待するのは気が早すぎるかもしれないが、7月下旬には日本語版ディレクター「Director 5.0J」もリリースされて今後ますます目が離せなくなりそうだ。

©1994-2007 Impress R&D

音声編

SOUND

音楽や声が聞ける ホームページを作りたい!

最近のパソコンは、ほとんどマイクが付いていたりライン入力ができるので、データを作るのはラクチンになっている。そのデータをページに載せる方法解説しよう。ホームページにあなたの演奏した音楽を鳴らしてみよう。

サウンドをホームページに載せられるデータに変えよう

パソコンで音声の録音/再生をするにはサウンドボードが必要だが、一部ノート型を除けば、現在市販されているパソコンの多くは最初からサウンドボードを内蔵している。だから、今すぐにでも声や音楽を録音できる。

ただし、録音したサウンドをそのまま使うのは問題だ。データの最初と最後に音のない部分が残っているからだ。この空白部分を取り除く必要がある。

●

録音するときのデータ形式も問題だ。インターネットにはウィンドウズやマッキントッシュやUNIXなどさまざまな環境のマシンが接続されているから、特定の環境でしか再生できないデータ形式は避けたほうがいい。通常は、WAVE、AIFFとAUの3種類のデータ形式を使うのが一般的だ。WAVE形式はウィンドウズ、AIFFはマッキントッシュ、AUはUNIXで広く使われているデータ形式だ。この3種類すべてのデータを用意すればより親切だろう。サウンドエディターがこれら3種類のデータ形式に対応していない場合は、変換ツールも用意したいところだ（表1参照）。

●

また、サウンドファイルを極力小さくすることも大切だ。スピーチは短く、音楽は演奏全体ではなく一部だけにしよう。

デジタルサウンドの音質は、サンプリングするビット数と周波数で決まる。ビット数が大きいほど、周波数が高いほど音が良くなり、サンプリングしたデータも大きくなる。

しかし、スピーチにCD並みの音質など不要だ。サウンドは粗くなるが、8ビット、11kHz程度のサンプリングでも、喋り手の声を区別でき、内容も十分聞き取れる。それより低くてもいいくらいだ。せいぜい16ビット、22kHz程度で十分だろう（表2参照）。

●

ホームページにサウンドを載せる際には、著作権にも注意だ。自作の曲や著作権の切れている（著作権者の死後50年経っているもの）童謡やクラシックなどを、自分で演奏して載せるのであれば問題ないが、それ以外の無断使用は厳禁。著作権が切れている曲でも、プロの演奏はもちろん使えない。マルチメディアタイトル制作用に販売されている著作権フリーの素材集を除いて、CDからサンプリングしたサウンドは使えないのだ。

表1：サウンドツールと対応データ形式

	ソフト名	バージョン	用途	データ形式 WAVE	AIFF	AU	入手先URL
WIN	GoldWave	3.2	録音/再生/編集	○	○	○	http://web.cs.mun.ca/~chris3/goldwave/beta.html
MAC	SoundEffect	0.9.1	録音/再生/編集	×	○	×	ftp://ftp.alpcom.it/software/mac/Ricci/html/alb.html
	SoundMachine	2.6.2（J）	再生	○	○	○	http://online.anu.edu.au/RSISE/teleng/Software/JapaneseVersions/welcomeJ.html
	ConvertMachine	1.6.2（J）	変換	○	○	○	http://online.anu.edu.au/RSISE/teleng/Software/JapaneseVersions/welcomeJ.html

長時間の再生には、リアルオーディオが最高！

リアルオーディオなどのリアルタイム再生タイプのシステムのメリットは、ファイルサイズをいくらでも大きくできること。アクセスした側が、いつでも再生とデータのロードを中断できるからだ。ただしこのタイプのシステムは、モデム接続のような低速度の接続環境でもリアルタイム再生ができるようにデータを圧縮している。そのため音質はそれほどよくない。新しいバージョンのリアルオーディオでも、AM放送とFM放送の中間程度の音質だ。

このタイプの場合、設定が少々面倒くさい。WAVEやAIFF形式ならHTMLファイルに直接ファイル名を設定するだけでいいが、リアルタイム再生の場合は、対応ファイルが置かれている場所とファイル名を書いた記述ファイルがいる。そして、この記述ファイルにリンクするアンカータグを設定する。しかも、WWWサーバーのほかにリアルオーディオサーバーも必要なのだ。

表2：サンプリング周波数と1分間当たりのデータサイズ

サンプリング周波数（kHz）	サンプリングビット数（bit）	ステレオ（kB）	モノラル（kB）
7.418	8	890	445
11.025	8	1323	661
11.025	16	2646	1323
11.127	8	1335	667
22.05	8	2646	1323
22.05	16	5292	2646
22.254	8	2670	1335
44.1	16	10584	5292

※マッキントッシュでは、SoundManager3.0以降を使っている場合、ウィンドウズと同じく11.025kHz、22.05kHzといったサンプリング周波数がシステムに設定されている。また、SoundManager2.0では、11.127kHz、22.254kHzサンプリング周波数が設定されている。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

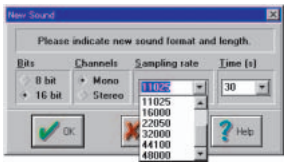
SOUND

音声編

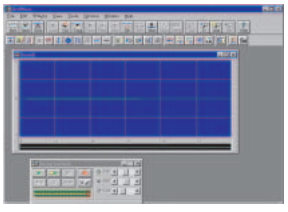
GoldWaveの使い方

GoldWave

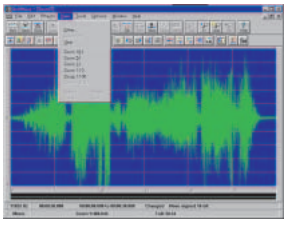
GoldWave（シェアウェア）は、サンプリングだけでなく、選択した範囲にさまざまなエフェクトまでかけられる便利で手軽なサウンドエディターだ。



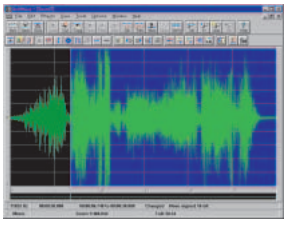
サンプリングするサウンドの条件を設定。



録音やサウンドの波形を表示するサウンドウィンドウ。



波形を見やすいサイズに拡大。Viewメニューの「Zoom 1:100」あたりが見やすい。Viewメニューから「Other」を選択すれば、任意のサイズに変更できる。

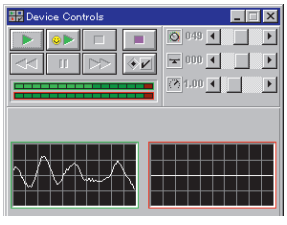


カットする範囲を指定して、「Delete」キーを押すか、Editメニューから「Cut」を選ぶか、あるいはツールバーのカットボタンをクリックすると、選択した範囲が削除される。

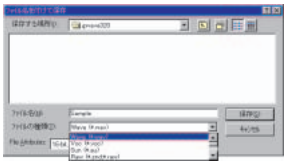
1

サウンドをサンプリングするには、まずFileメニューから「New」を選択。各種の設定をする。あとで不要な部分は切り取ることができるから、録音時間は長めに設定しておいたほうがいい。

サウンドウィンドウが表示され、Device Controlsウィンドウの録音ボタンをクリックすれば録音開始だ。



録音、再生などをコントロールするDevice Controlウィンドウ。普通の再生ボタンをクリックすると再生に、ニコニコマーク付き再生ボタンをクリックすると繰り返し再生になる。



編集が終わったら、ファイル名を付けてデータを保存する。

2

マイクまたはライン入力からの音声信号が録音される。ストップボタンをクリックすれば録音終了だ。

録音が終わったら編集だ。エフェクト機能を使ってエコーや反転再生などサウンドを好きなように加工できる

3

まずやらなければならないのが、不要な部分のカット。特に最初と最後の音が入っていない部分は切り取る。エフェクトやカットなどの処理は、選択した範囲に対して行われる。波形上でマウスの左ボタンをクリックした場所が選択範囲の開始位置、右ボタンをクリックした位置が終了位置になる。こうして範囲を決めてから、必要な処理をメニューバーまたはツールバーのボタンで指定するのだ。

4

編集が終わったら、データの保存だ。GoldWaveは、WAVE、AIFF、AUの3種類の形式に対応しているから、必要な形式のデータはこの1本ですべて作ることができる。

SoundEffectsの使い方

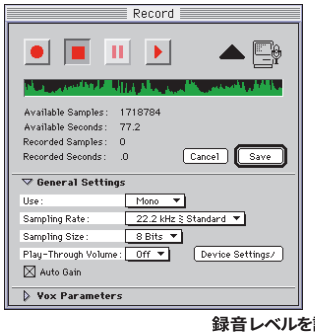
SoundEffects

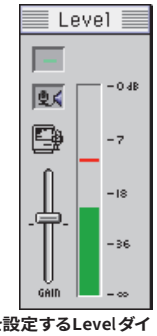
バージョンがまだ0.9.1と1.0にも満たないSoundEffects（シェアウェア）だが、ひととおりの機能は備えている。ホームページ用のサウンドデータを作るぶんには十分だ。

1

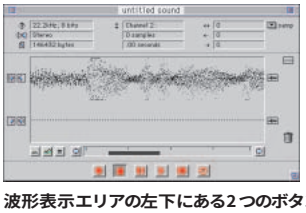
ソフトを起動し、ウィンドウ下部に並んだボタンのうち左端の録音ボタンをクリックすると、サンプリングの条件を設定する「Record」ダイアログが開く。ここで各種の設定をする。入力ソースには、マイクとライン入力のほか、内蔵CD-ROMからの音楽も使える。

録音する前に、Recordダイアログでサンプリング条件を設定する。ここではサンプリング周波数は、22.05kHzと44.1kHzのどちらかしか選べない。

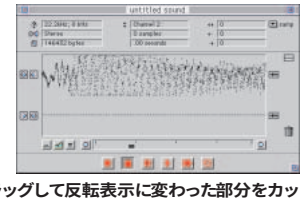




録音レベルを設定するLevelダイアログ。左側にあるノブを動かして、録音レベルを調整する



波形表示エリアの左下にある2つのボタンで、表示波形を編集しやすい大きさに変更。



ドラッグして反転表示に変わった部分をカットしたり、エフェクトをかけたりする。

2

設定がすんだら、録音ボタンをクリックすれば録音が始まる。ストップボタンをクリックして録音を終了したら、「Save」ボタンをクリック。「Record」ダイアログが消えて、ウィンドウに録音したばかりの波形が表示される。

3

次は波形を作業しやすい大きさに拡大して、不要な部分のカットだ。そのあとはサウンドを加工する。波形上でマウスをドラッグして反転表示に変わった部分が加工できる。

4

編集作業が完了したらデータのセーブだが、SoundEffectsにはAIFF形式とマックOSのシステム7サウンドファイルの2つの選択肢しかない。そこでWAVE形式やAU形式のファイルを作るには、Convert Machineなど別のツールで変換しなければならない。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

音声編

ADVANCED TOOLS

これがMIDIデータを ホームページに置くためのツールだ

ソフトだけでMIDIデータを再生できるプラグインや、MIDIデータを作成するシェアウエアいくつかある。これを使って、きれいな音に出るホームページに仕上げよう！

ホームページの演出効果の大きいサウンドだが、難点はデータサイズが大きいこと。しかし、スピーチでなく音楽ならばうまい方法がある。MIDIだ。MIDIファイルに含まれているのは音程、音長、音量や音色などを指示するデータだけだから、ファイルサイズはきわめて小さい。どんなに長い演奏でも数十kバイト程度で、音質良好。ホームページを演出する手段として、これほど最適なものはない。

ネットスケープ2.0のプラグインのなかには、MIDI対応のものがいくつかある。ヤマハのMIDPLUGがそれだ。MIDPLUGをインストールしたネットスケープナビゲーター2.0でMIDI対応ファイルにアクセスすると、ウィンドウにコントローラーが表示される。このコントローラーを使うと、プレイ、ストップやポーズだけでなく、テンポや音程の変更もできるから面白い。

MIDPLUGなどのMIDIプラグインで再生できるのは、拡張子が.midのスタンダードMIDIファイルに限られる。各MIDIソフト固有の形式でデータを保存しても、再生できない。また、MIDIファイルをWWWサーバーに認識させるには、MIMEタイプやサブタイプ、拡張子などをあらかじめサーバー側の設定ファイルに登録しておかなければならない。このあたりはプロバイダーに問い合わせてみよう。

ヤマハ MIDPLUG

WIN MAC

ヤマハのMIDPLUGはウィンドウズとマッキントッシュの両方のバージョンがあり、しかもソフトウェアでシンセサイザーのシミュレーションをするソフトシンセサイザーを内蔵し、MIDI音源がなくても、音楽が楽しめる。使い方の説明が、日本語で読めるのはありがたい。

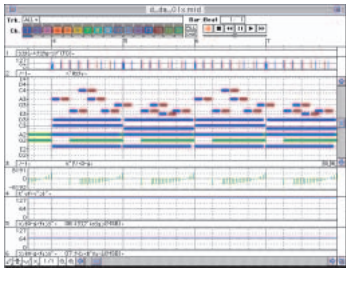
URL http://www.yamaha.co.jp/xg/S/S.html
フリーの素材ライブラリー：
URL http://www.yamaha.co.jp/xg/L/lib.html

MIDIGraphy

WIN MAC

マッキントッシュ用のMIDIデータ再生ツール。こちらは音符を並べるのではなく、コードごとに、鳴らす長さなどを指定する。DTMの知識がある人は、こちらのほうが作りやすいかもしれない。

URL http://ux01.so-net.or.jp/~mmaeda/



Cressendo!

WIN MAC

MIDPLUGと同じように、Cressendo!もMIDIデータを再生するプラグインツールだ。こちらウィンドウズ版とマッキントッシュ版がある。音質もMIDPLUGとほとんど変わりない。

フリーの試用版もダウンロードできるが、製品版を購入するとリアルタイムでのデータ再生ができる。

URL http://www.liveupdate.com/get.html

ミュージ郎 5500

WIN MAC

MIDPLUGなどに内蔵されているソフトシンセサイザーは、ソフトだけで出しているとは思えないほどいい音だ。しかし餅は餅屋。もっといい音で音楽を聞こうと思ったら、音源は専用のハードウェアに任せるにかぎる。

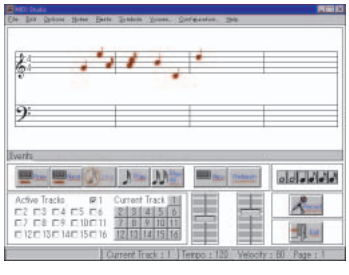
ひと口にシンセサイザーといってもピンからキリまであるが、価格などが手頃で操作も簡単なコンピュータミュージック用にMIDI編集ソフト付きのパッケージもある。こうしたものなら、MIDIを聞いて楽しむだけでなく、作って楽しめる。MIDI対応のゲームもあることだし、MIDI音源が1つあると何かと便利だ。

MIDI Studio

WIN MAC

ウィンドウズでMIDIデータを作成するツールだ。音符を並べていくと音楽が出来上がる。半音上げたり下げたりの記号もある。

URL ftp://ftp.iij.ad.jp/pub/simtelnet/win3/music/mstud41.zip

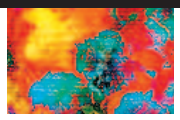


販売：ローランド株式会社
定価：63000円
問い合わせ先：03-3251-5791

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

画像編

GRAPHICS



きれいな画像を表示したい

画像がなかなか表示されなくてイライラしたり、画像の色が汚くなってしまったりしたホームページがある。こんなことがないように、すばやくきれいに画像を表示させるコツを紹介しよう。

圧縮率と表現力を考えて、ベストな画像形式を選ぼう

GIF形式は256色までしか表現できないため、GIF形式で保存された写真は不鮮明でぼんやりとした印象を受けがちだ。それに対して、JPEG形式は写真画像に対してその効果を発揮できるように設計されているため、1670万色が表示できる。また、同じ写真をGIF形式とJPEG形式で圧縮した場合、JPEG形式の方がファイルが小さくなる。ただ、モニターの発色数の設定を256色にしていたり、256色しか表示できないマシンの場合だと、それ以上の色が表示されず、せっかくのきれいなデータがので注意だ。

しかし、このJPEG形式はイラストやロゴデザインなどのように線画で描かれるものや、同じような色やはっきりと分かれた色を使って描かれた画像に対しては、圧縮率が低くなってしまううえ、画像の質を落としてしまうこともある。

それぞれの圧縮の特徴をふまえると、イラストなどの線画や、色数が少ない画像の場合は、GIF形式を使ったほうがよいと言える。また、GIF形式には、トランスペアレンシーやインターレース（別表参照）などといった機能もあるのだ。

JPEG形式の特徴は、色数が多いまま圧縮率できる点だ。フルカラーの写真を置いたり、データサイズを小さくしたい場合は、この形式を使うとよいだろう。また、JPEG形式にもプログレッシブJPEG形式というGIF形式のインターレースと同じような表示ができるものがある。

●

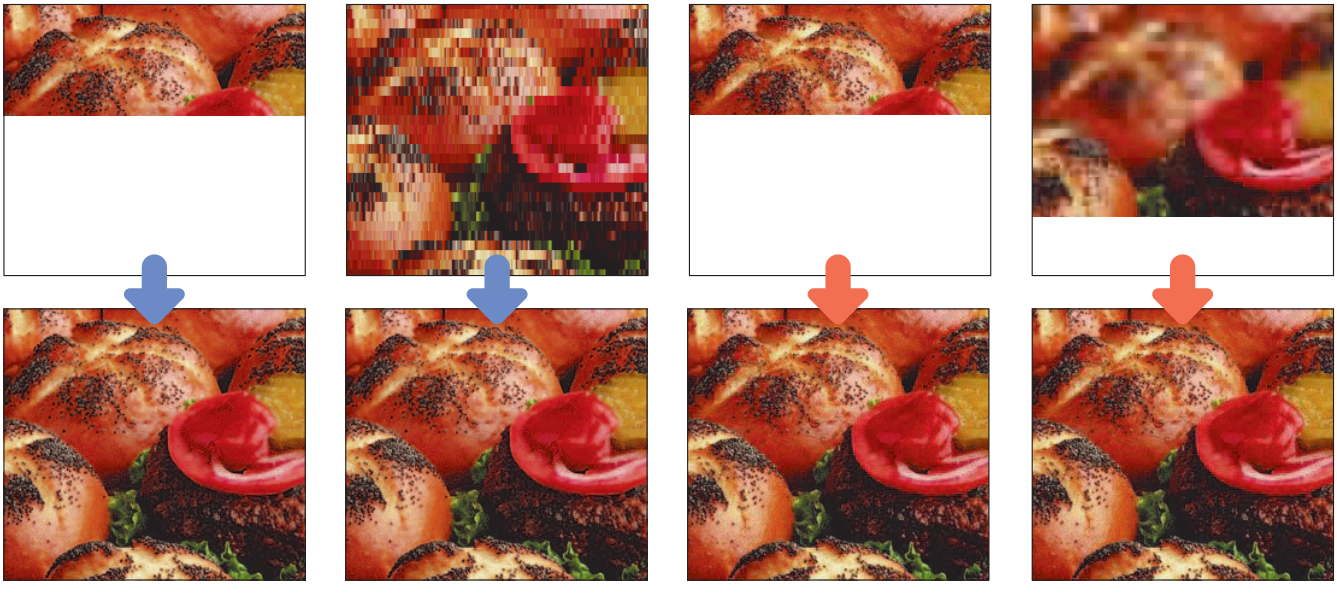
さて、ファイル形式にはGIFとJPEGの2つの形式が存在し、いくつかのバリエーションがあることは理解できただろうか。それでは、どのように画像が見えるのかを見てみよう。

■GIF形式
ファイルサイズ：160K

■インターレースGIF形式
ファイルサイズ：160K

■JPEG形式
ファイルサイズ：64K

■プログレッシブJPEG形式
ファイルサイズ：45K



インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

画像編

ADVANCED TOOLS

これが、画像を加工する便利なツールだ

デジタルカメラで撮った写真や、スキャニングした画像などのファイル形式を変換したり、きれいに表示させるためのツールを紹介しよう。

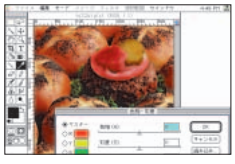
インターレースGIFやプログレッシブJPEGなど、前ページで見たような画像形式にしたり、きれいな画像を表示させるためには、ファイル形式を変換するツールや画像を加工するためのソフトが必要になる。市販のものももちろんだが、シェアウェアでもなかなか高機能なものが出てきている。

それらをうまく使うことで、きれいな画像で、かつさまざまな表示形式のものをホームページに置くことができるのだ。

Adobe Photoshop

WIN MAC

画像ファイル編集用のソフトとしては定番のソフトだ。補正のしかたや画像形式もさまざまな方法をサポートしている。しかし、プロ向けのソフトだけに、Adobe Photoshop3.0で価格が155000円とかなり高価だ。



URL http://www.adobe.com/prodindex/photoshop/main.html

Graphic Converter

MAC

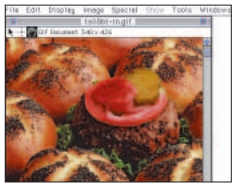
マッキントッシュ用のシェアウェアの画像ファイル編集ソフト。画像補正機能や編集機能などがかなり充実している。インターレースGIFや、トランスペアレンシーGIF（透明GIF）などへの変換もサポートしている。

URL http://members.aol.com/lemkesoft/index.html

GIF Converter

MAC

マッキントッシュ用のシェアウェアの画像ファイル編集ソフト。GIF画像の加工や減色などの処理ができる。また、インターレースGIFへの変換ができる。



URL http://www.kamit.com/index.html

Paint Shop Pro

WIN

ウィンドウズ用のシェアウェアの画像ファイル編集ソフト。編集機能も充実しているうえに、多くの種類の画像形式に対応している。ウィンドウズユーザーならこれで、かなりのことができる。

URL http://www.jasc.com/pspdl.html

GIX

WIN

ウィンドウズ用の画像ファイル変換ソフト。インターレースGIFやトランスペアレンシーGIF（透明GIF）に加え、プログレッシブJPEGも作成できる。Paint Shop Proと組み合わせて使うとよい。

URL http://www.tocka.com/indexj.html

JPEG Transmogrifier

MAC

PICTファイル、GIFファイル、それにJPEGファイルをプログレッシブJPEGに変換するマッキントッシュ用のシェアウェアソフト。送金して登録すると、ドラッグ&ドロップで変換ができる。

URL http://www.in-touch.com/pjpeg.html

ホームページに画像を置くときのポイント

短い時間で画像を表示させるには

ページのトップにいきなり大きな画像をドン！と置くのは考えものだ。回線が込んでいるときなど、なかなか画像がダウンロードされなく、見ている人はかなりいらいらする。せっかく頑張って作った画像も、見てもらう前にほかのページにジャンプされしまってはつまらない。

フォトレタッチのできるソフトがあったら、拡大して、画像のノイズなどを塗りつぶして減色してみよう。また、画像を作る場合は、最初から色数を減らしてデザインを考えるのもポイントだ。なにも色をたくさん使えばかっこいい画像になるというわけではないのだ。

また、画像をHTMLで指定する際には、

<img src="画像ファイル" ALT="メッセージ"width=横幅 height=高さ>

という指定をしておこう。最初に枠とメッセージが表示され、文字がすぐに読めるようになる。また、うまく画像が表示されなかったときなど、ここに画像があるということを示せる。いくつかのHTMLエディターでは、この機能をサポートしている。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

デジタルカメラの写真をもっときれいにしよう

最近流行のデジタルカメラ。シャッターを切ってその場で画像が見られたり、画像をすぐにパソコンに取り込んで加工できるのはかなり便利だが、画質に難点があるのも事実だ。デジカメで撮った写真を上手に加工して、きれいに仕上げるコツをいくつか紹介しよう。

正直言って、デジカメの映像の質はあまりよいとはいえない。天気のいい日、直射日光の下で撮影をしたりすると、表現域が追いつかなくて全体が白っぽく、色が飛んだ画像になってしまうことがある。

また、解像度もそんなに高くないので影の部分は真っ黒につぶれてしまい、見えなくなってしまうことが多い。一般的なレンズの絞りや露出などは、特別に設定することはできないし、それができるカメラは値段も高い。また、部屋の中など光量が少ないところでは、ぼわっとした、輪郭のはっきりしない絵になってしまいがちだ。

デジタルカメラの種類によっては、画像補正ツールが付いているものもある。

日本コダック株式会社のDC20や、セイコーエプソン株式会社のカラリオCP-100などには、フォトエンハンサーという画像修正機能を持ったソフトが付録で付いてくる（ウィンドウズ95＆マッキントッシュ対応）。また、デジタルカメラの人気機種であるカシオ計算機のQV-10AやQV-30の場合は、ウィンドウズ版の接続キットのなかに画像補正機能を持ったソフトが付いてくる（QV-LINK／9,800円）。これらのソフトを使えば、比較的安価に画像修正ができるというわけだ。

フォトエンハンサーの画面。画像補正のメニューがいくつか用意されている。

QVシリーズの画像を補正できるQV-LINK。

色が飛んでしまっている画像

輪郭がぼやけてしまっている

写真の補正のしかた

GraphicConverter

ここでは、マッキントッシュ用のグラフィックツールであるGraphicConverterを例にとって説明しよう。ウィンドウズならPaint Shop Proという強力な画像編集ソフトがあるのでそちらを利用してみてはどうだろうか（それぞれの入手先は204ページ参照）。

色が飛んでしまった場合の補正のしかた

直射日光の下で撮影し、色が飛んでしまったあじさいの画像を補正してみよう。全体的に白っぽくなってしまったので、明るさを下げて、コントラストをちょっと強くしてみた。それから、色が付いているところはもっと色が出るように彩度を上げた。これであじさいに水々しさを取り戻すことができた。

バリエーションにとんだ画像補正が可能だ。

補正したあとの画像。上の画像と比べてみよう。

全体にぼんやりと色が付いてしまった場合の補正のしかた

あじさいの写真は、全体的に黄色っぽくなってしまったので、黄色の反対色であるブルーを少し加える。また、花びらの形をしっかり出すためにちょっと輪郭にシャープをかけた。

ちなみに、赤色がかってしまったらシアンを加える。青色がかってしまったらイエローを足す。

補正する前の画像。

これが補正したあとの画像。

ものの形をしっかり出すための補正のしかた

室内の暗いところで撮影すると、被写体の輪郭の部分までを捉えられず、全体にぼんやりとした印象を受けてしまう。そこで、この室内で撮ったスノーボウルとガラスのコップは輪郭のシャープさを強めて、コントラストを強めにかけてみた。これによって、形のはっきりしたメリハリのある画像になる。

補正したあとの画像。形がはっきりしている。

©1994-2007 Impress R&D

小技編

GRAPHICS

ホームページに いろいろなしかけを付けたい

クリッカブルマップやアクセスカウンターなど、付いているとかっこよく見えるしかけがいくつかある。一見難しそうに見えるが、意外と簡単な方法もあるのだ。ここでは、なるべく簡単にしかけを付ける方法を紹介しよう。

クリッカブルマップのあるホームページを作ろう

クリッカブルマップの種類には、大きく分けて2種類ある。サーバーサイドイメージマップとクライアントサイドイメージマップというものだ。

サーバーサイドイメージマップは、CGIというプログラムの一種を使用して、画像のどこをクリックしたら何というデータを呼び出す、というようなマップ設定ファイルをサーバーに設定するものだ。

これは、プロバイダー側のサーバーの種類を調べたり、こちらでサーバー設定をしたりする必要があるので、ある程度の知識が必要だ。

サーバー設定？　CGI？そんな単語は知らない…わからない…だめだできない…という読者も多いはずだ。

あきらめるのは早い。最近、ネットスケープナビゲーター2.0以降に「MAPタグ」というタグが採用されて、クライアントイメージマップという設定ができるようになった。これは、サーバーのCGI機能を使わないのでサーバーに負担をかけずに素早い反応が得られるマップ指定ができるうえ、そんなに難しい知識はいらない。また、IBMのホームページビルダーならこの機能をサポートしている。

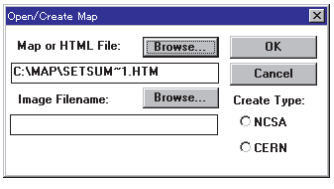
クリッカブルマップの作り方

MapEdit

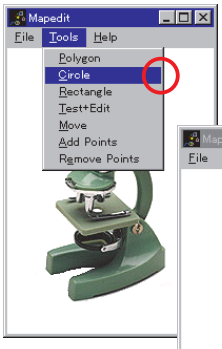
本誌の4月号でも紹介したツールだが、クライアントサイドイメージマップを簡単に作成できるツールだ。ウィンドウズ版のみ。（シェアウェア）

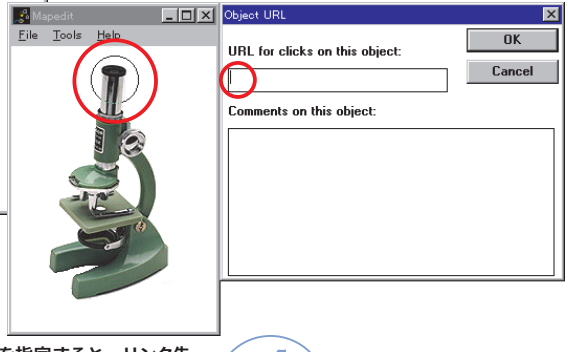
▶CD-ROM 収録先：WIN→MAPEDIT

1 まず、HTML作成ツールでクリッカブルマップにする画像を置いたファイルを作っておく。Fileメニューから「OPEN」を選び、クリッカブルマップを置くHTMLファイルと、クリッカブルマップにする画像ファイルを指定する。



2 Toosメニューから、URLを埋め込む範囲と形を選び、範囲を指定する。





3 範囲を指定すると、リンク先のURLを聞いてくるので、リンク先のURLまたはファイルを指定する。

4 何か所かリンクを指定すれば完成だ。ファイルができるので、あとはHTML作成ツールでページに張り込む。

マッキントッシュでクライアントサイドイメージマップを作るツール

WebMap
MapConvert

WebMapはサーバーサイドイメージマップを作成するツールだが、MapConvertを使うことで、クライアントイメージマップに変換してくれる。しかし、AppleScriptが必要だし、環境によってはうまく動かないので注意が必要だ。

WebMap
URL http://home.city.net/cnx/software/webmap.html

MapConvert
URL http://uiarchive.cso.uiuc.edu/pubindex/info-mac/text/html/map-convert-10-as.hqx.abs.html

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

アクセスカウンターの付いたホームページにしよう

「あなたは○○番目の訪問者です」というアクセスカウンター。このシンプルだけどあるとかっこいい機能を自分のホームページに付けてみようと思ったことはないだろうか。これが簡単に付けられる方法があるのだ。

見かけのシンプルさとは裏腹に、「普通の人々」が気軽に手をつけられる代物ではないのだ。アクセスカウンターは、CGIというものを利用しているからだ。

CGIはCommon Gateway Interfaceの略。WWWサーバーとサーバー上で動いている他のプログラムやススクリプトとの橋渡しをしてくれる仕組みのことだ。これを使うには、プログラムやスクリプトの知識が必要だ。アクセスカウンターはこのCGIの仕組みを利用している。

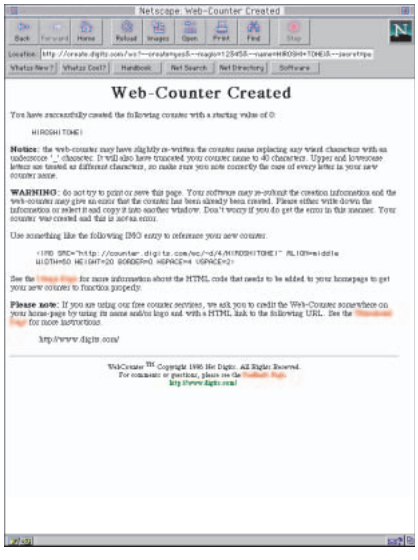
しかし、「ああ、あんなにあちこちで見かけるアクセスカウンターなのに、自分のページではできないのか…」とあきらめるなかれ。ここから、その簡単な方法を紹介しよう。

リンクを埋め込めば、簡単にアクセスカウンターが付けられるサービスがあるのだ。これを利用しない手はない。

アクセスカウンターの付け方

1 WEB counter（http://www.digits.com/）にアクセスし、「Create」のリンクをクリックする。

2 メールアドレスやアクセスカウンターの名前など、必要項目を入力していく。



3 HTMLのリンクの一文が送られてくるので、それをコピーして自分のHTMLファイルの中に書き込めばOKだ。また、http://www.digits.com/usage.html#Optionsに行くと、カウンターの文字を変えたりできるオプションの情報もあるので、アクセスしてみよう。

CGIを利用するためには

アクセスカウンターに限らず、CGIを利用してなにか特別の機能を持つページを作ろうと思ったら、プログラミング言語やWWWサーバーについての知識などがないと、扱うことは難しい。

試しに「Matt's Script Archive」（http://www.worldwidemart.com/scripts/）や「COUNTER4.0 HTML ACCESS COUNTER」（http://www/webtools.org/counter/）などというサイトを覗いてみよう。これらは、CGIを使ったアクセスカウンターの作り方や、さまざまなCGIのスクリプトを紹介している。もし、ここに書いてあることがよくわからないというようなら、前途は多難だ。

その前に、プロバイダーによってはCGIが使えないかもしれない。多くのWWWサーバーでは、初期設定のままだとCGIが使えない設定になっている。

また、プロバイダーによっては、システムの保安上の理由からCGIを禁止しているところもあるのだ。

注意！

世界中の人がここを利用しているので、世界中からアクセスがある。そのため、ちょっと混んでいることも多い（混んでいると、ページ上のカウンターが“BUSY”の表示になってしまう！）。

その他のアクセスカウンターがつけられるページ

URL http://www.st.rim.or.jp/~hirono/cgi-bin/counter/

URL http://www.a-frontier.com/counter.html

©1994-2007 Impress R&D

小技編

見る人の環境が違っても、文字が見やすいページにしよう

日本語の文書を美しく表示させる…、これは印刷のプロたちも頭を悩ませる問題だ。しかもホームページの場合、見る側の環境で文字をきれいに表示するにはかなりの制限がある。まずは、どんな違いがあるかを見てみよう。

現在、シェアウェアやβ版も含めると何種類のブラウザーが存在しているか把握できるだろうか？　数種類のブラウザーを1台のマシンにインストールして使っている人も多いのではないだろうか。

さまざまなブラウザーは、それぞれ独自のタグや設定を開発しているので、HTMLという「共通の約束」に従って文字の大きさや行間を調整してページをレイアウトしても、自分の意図したとおりに表示できないことが多いのが実状だ。

HTMLエディターでホームページを作成し、ネットスケープナビゲーターで字の大きさなどを確認しても、インターネットエクスプローラではまったく違う見え方をしてしまい、思ったとおりのものにならないこともある。また、ウィンドウズとマッキントッシュでも若干見え方が違ってくるのだ。

ブラウザーやOSでの、ホームページ見え方の比較

同じブラウザーでの見え方の違い

まず、ブラウザーが表示する文字の種類とその大きさだが、これはそのブラウザーを使う人がそれぞれ設定しているので、なかなか統一されない。同じネットスケープナビゲーターでも、作者は左の画面のようにレイアウトしたつもりなのに、とあるインターネットカフェでアクセスしてみたときは、右の画面のように表示されてしまっていた。

手間をかけて画面中の罫線とテキストの幅を合わせたのに、ぜんぜん反映されないので、作り手としてはがっかりだ。

たとえば、マッキントッシュ版のネットスケープナビゲーターの場合は、「文書の文字コード／DocumentEncording」で「日本語／Japanese」を選ぶと、最初の設定はOsakaで12ポイントが設定されている。それを変えられてしまうと、元も子もなくなってしまう。

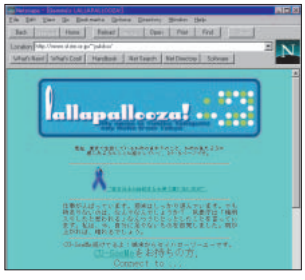
作者が最初に意図したデザインのホームページ。

ほかのマッキントッシュで見た場合の見え方。

ウィンドウズのネットスケープで見た場合の見え方の違い

次にウィンドウズ95版のネットスケープナビゲーターで見てみる。初期設定のままで表示させてみても、最初に意図したものとは違う表示になっている。

そこで、同じ表示になるようにフォントの大きさを変えてみた。MSゴシックで、9ポイントを指定したところ、罫線とテキストの幅は合った。しかし、潰れて読めない文字が出てきてしまった。ここは本文のフォントよりちょっと小さいフォントで表示するように指定した部分だ。マッキントッシュ版だとちゃんと読めるが、ウィンドウズ95版だとこれでは読めないという問題が発生してしまう。



ウィンドウズ95で見た場合の見え方。

ウィンドウズ95に合わせて、字の大きさを調整したが、小さくて見えない部分ができてしまった。

インターネットエクスプローラでの表示の違い

インターネットエクスプローラ の最初の設定のままで表示させると、フォントのサイズが妙に大きい。これは、文字の大きさを指定する<FONT SIZE>タグはネットスケープナビゲーター独自のタグなので、エクスプローラで表示したページ上には反映されないためだ。フォントの大きさで文章にメリハリを付けた作者のもくろみは、崩れさった。

インターネットエクスプローラの文字の大きさは、初期設定の「中」を中心に大小5段階で調整する。サイズを「最小」に設定しても、テキストは罫線の幅からはみ出してしまった。

文字が大きくなって読みやすいが、作者の意図したものとは違う見え方だ。

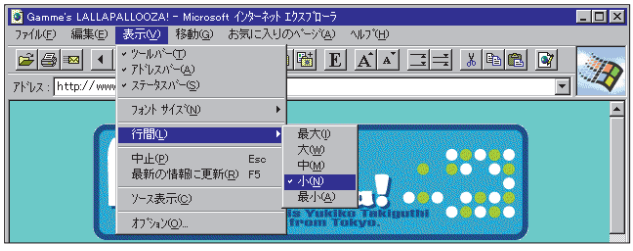
文字の大きさは5段階で調節する。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

ブラウザーやOSでの、ホームページ見え方の比較

インターネットエクスプローラ2.0は行間が設定できる

ネットスケープナビゲーターにはないインターネットエクスプローラの独自のユニークな設定に、行間の調節がある。最初の設定は「小」で、5段階の調節ができる。行間などで読みやすさの変わる日本語には嬉しい設定だが、これでまた見え方が違ってくる。



行間を変えられるのは、見る側にとってはうれしい設定だ。

どんな環境で作成したかを明記しておこう

せっかくHTMLエディターなどで見やすいようにレイアウトしても、ブラウザーでその上から設定をかけるともう元がどうなっていたのかなんてわからなくなってしまう。

しかも、見ている人がどんなブラウザーを使っているかわからないし、みな同じブラウザーを使っているわけではないので、何を基準にして読みやすいように文字を組むのかを考えるのは大変だ。

そこで、そのページを作った人がどのブラウザーでレイアウトを確認したのか明記するというのも技の1つだ。

意図した通りの結果が現れるブラウザーなどを指定しておくのも技ではある。

ADVANCED TOOLS

これが雑誌のようなレイアウトのページを作れるツールだ

雑誌や新聞のようなページがインターネットで読めるのがAdobe Acrobatだ。近日中に日本語版もリリースされる予定なので楽しみだ。

関連情報
URL http://www.adobe.com/acrobat/
アクロバットファイルが読めるページのリンク集
URL http://www.adobe.com/acrobat/3beta/amexamp.html

普通のブラウザーで読むような電子文書のレイアウトは、紙の雑誌や新聞に及ぶべくもない。しかし、Adobe社の開発したAdobe Acrobatを使うと、雑誌のような文書を読むことができる。

「.pdf」という拡張子の付いたファイルをご存じだろうか？ これは「Portable Document Format」という意味だが、一般に「アクロバットファイル」などと言われる。これは、Adobe社が、DTPソフトで作成したものをオンラインで流通させるために開発したソフトなのだ。

アクロバットファイルなら、ブラウザーの設定などに左右されず、イメージしたレイアウトどおりのページを見せることができる。レイアウトや図版が、まるで新聞や雑誌のように組まれたファイルをそのままオンラインで配布できるというわけだ。それでいてファイルサイズも意外に軽いのに驚く。

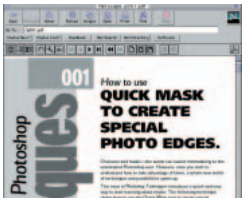
残念ながらこのAdobe Acrobat、まだ日本語が扱えないのだ。しかし現在日本語版も開発中とのことなので、近々日本語で組まれたアクロバットファイルのオンラインマガジンや新聞が読めるようになるだろう。

Adobe Acrobat3.0 Beta Reader

WIN MAC

Adobe Acrobatファイルを読むためのソフトだ。専用のリーダーソフトでも読めるが、プラグインをインストールするとレイアウトされたページがネットスケープの画面の中で読める。

URL http://www.adobe.com/acrobat/3beta/#dl

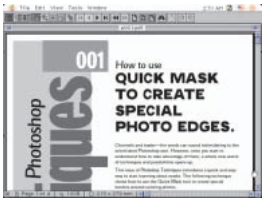


Adobe Acrobat Exchange3.0

WIN MAC

Adobe Acrobatのファイルを作成するツール。DTPソフトで作ったレイアウトデータをこれらのソフトを使ってアクロバットファイルに変換するのだ。

URL http://www.adobe.com/acrobat/ 3beta/#dl



©1994-2007 Impress R&D

小技編

フレームで分割されたページにしたい

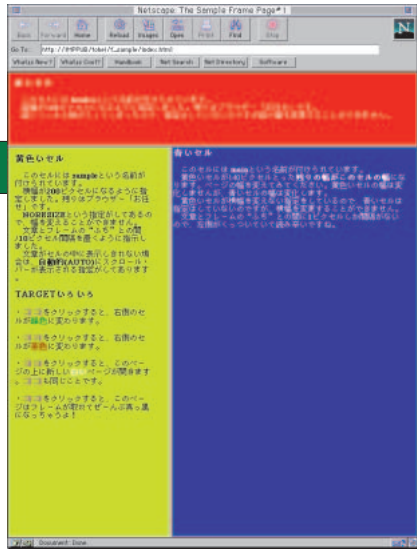
最近、ページの中をいくつかに区切ってその中に別々のページを表示させるフレームを使ったページをよく見かける。これを、ぜひホームページにも取り入れてみたいという人は、このページを参考にしよう。

フレームはネットスケープナビゲーター2.0から加わった新しい機能だ。現在は、インターネットエクスプローラ3.0もこの機能をサポートしている。

これを使うと、1ページをいくつかのウィンドウに区切ることができる。それぞれのフレームに、別々のページを表示させることができるのだ。HTMLエディターではこれをサポートするものがまだ少ないため、ここではタグを埋め込んでフレームを作る方法を詳しく解説する。すべてを一気に理解するのは結構難しい。サンプルページを用意したので、この中の数値を変えたり、リンク先を変えたりしながらそれぞれのタグの働きを理解していこう。

サンプルはCD-ROMに収録されている

ここで紹介するサンプルページは、付録のCD-ROMに収録されている。「9月号のもくじ」→「ワンランク上のホームページ作成術」→「フレームのサンプル」の順にリンクをたどっていけばOK。本誌を読みながら、実際のページを動かしてみよう。



フレームの作り方

1

●全体のフレーム（index.htm）を設定する

通常<HEAD>…</HEAD>でタイトルバーに表示させる文字を指定したあとのファイルの本体の部分は、<BODY>…</BODY>で囲むが、フレームの場合、

<FRAMESET>…</FRAMESET> ……❶

で囲む必要がある（図1参照）。

次に、画面を分割する。index.htmでは最初5行目で

<FRAMESET ROWS="120,*">

という指定がしてある。これはフレームを横2つに分割して、最初の横1列目の高さが120ピクセル、残りをフレームにするという意味だ。

2

フレームを分けたら、目的のフレームに何を表示するかを決める必要があるが、これは<FRAME>タグで指定する。

<FRAME SRC="header.htm" NAME="header" ……❷
SCROLLING=AUTO NORESIZE> ……❷

SRC	表示させたいフレームのファイル名またはURLを入れる。
NAME	そのフレームに名前をつける。ここでは、上の部分の赤いフレームに"header"という名前を付けている。
SCROLLING	スクロールできるようにするかしないかを指定できる。AUTOは「内容が大きければスクロールバーを表示する」の意味だ。
NORESIZE	フレームの大きさを変更できなくする。この指定がない場合、フレーム枠をマウスでドラッグすると、大きさを変えることができる。

<FRAMESET COLS="250,*">以降で、今度は縦に分割するフレームの設定を同じようにしている。

```
<HTML>

<HEAD>
<TITLE>The Sample Frame Page#1</TITLE>
</HEAD>

<FRAMESET ROWS="120,*">                    ❶
<FRAME SRC="header.htm" NAME="header"      ❷
SCROLLING=AUTO NORESIZE>

<FRAMESET COLS="250,*">                    ❶
<FRAME SRC="left.htm" NAME="sample"
MARGINWIDTH=10 MARGINHEIGHT=10
SCROLLING=AUTO NORESIZE>
<FRAME SRC="right.htm" NAME="main"
MARGINWIDTH=1 MARGINHEIGHT=1
SCROLLING=AUTO>
</FRAMESET>                                ❶
```

図1　index.htmファイル

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

フレームの作り方

●左側のフレーム（left.htm）の設定

右側の黄色いフレームに青色のページを表示させてみようという場合を例にとろう。ここの場合は左側のフレームのHTMLファイルであるleft.htmのファイルで指定する（図2参照）。

<A HREF="green.htm" TARGET="main"> ……❸

TARGET="main"となっているので、この左側のフレームの一番上のリンクをクリックすると、mainという名前のフレーム（ここでは右側の青いフレーム）にgreen.htmを表示させるということになる。

フレームを解いて外のページへとリンクをしたい、普通のページの形式に戻したい場合の指定だ。

<A HREF="white.html" TARGET="top"> ……❹

でTARGET="_top"と指定すれば、フレーム機能が解除される。

TARGET="top"

という指定で、新しいブラウザーを開くようにもできる。先ほどと違って「_」が付いていないことに注意しよう。

あとは、サンプルをいろいろといじって、理解していこう。

```
<HTML>

<HEAD>
<TITLE>sample</TITLE>
</HEAD>

------ 中略 ------

❸…<A HREF="green.htm" TARGET="main"><FONT SIZE=4>
<B>ココ</B></FONT></A>をクリックすると、右側のセルが
<FONT COLOR="#008800"><B>緑色</B></FONT>
に変わります。<P>

<A HREF="brown.htm" TARGET="main"><FONT SIZE=4>
<B>ココ</B></FONT></A>をクリックすると、右側のセルが
<FONT COLOR="#994315"><B>茶色</B></FONT>
に変わります。<P>

❹…<A HREF="white.htm" TARGET="top"><FONT SIZE=4>
<B>ココ</B></FONT></A>をクリックすると、このページの
上に新しい<FONT COLOR="#FFFFFF"><B>
白い</B></FONT>ページが開きます。
<A HREF="white.htm" TARGET="white.htm">
<FONT SIZE=4><B>ココ</B></FONT></A>
も同じことです。<P>

<A HREF="black.htm" TARGET="_top"><FONT SIZE=4>
<B>ココ</B></FONT></A>をクリックすると、このページは
フレームが取れてぜーんぶ真っ黒になっちゃうよ！<P>

</BODY>

</HTML>
```

図2　left.htmファイル

フレームを簡単に作成するツール

FrameIT WIN

簡単にフレームを作成できるツールがある。簡単な質問に答えていくだけでフレームを自動的に作ってくれる（シェアウエア）。ただし、日本語が通らないのと、作れるフレームの形に多少の制限がある。

▶CD-ROM ◎ 収録先：WIN→FRAME

PageSpinner MAC

マッキントッシュ用のHTMLエディター。フレーム作成機能が付いている（シェアウェア）。フレームのHTMLを自動作成してくれるが、ソースをコピーしなくてはいけないので、HTMLの知識が必要だ。

URL http://www.algonet.se/~optima/pagespinner.html

データをプロバイダーのサーバーに置くには

ホームページの出来上がりを確認したら、プロバイダーのサーバーにデータを置いて「公開！」ということになる。ファイルのアップロードの仕方だが、データをフロッピーディスクで送るか、FTPでサーバーにアクセスして自分でファイルを転送するのが一般的だ。初心者にとって、フロッピーでデータを送ってサーバーに置いてもらうのは簡単だが、その後更新したいときには面倒になる。FTPだと自分でデータを更新できるので便利だ。どちらの方法を採用しているかは、各プロバイダーの入会案内を見るか、プロバイダーに問い合わせをしてみよう。

Cute FTP WIN

CuteFTPはウィンドウズのエクスプローラを操作するのと同じ感覚でFTP作業を行うことができる。コマンド入力ではなく、マウスで操作できるし、ファイルが置かれればウインドウに表示されるので、確認もできる。

▶CD-ROM ◎ 収録先：WIN→CUTEFTP

Fetch MAC

マッキントッシュお得意のGUIで、普通にファイルをコピーしたり削除したりするのと同じ感覚で操作できる。ファイル転送にかかる時間を円グラフで表示してくれる。

▶CD-ROM ◎ 収録先：Mac→Fetch3.0.1

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレス R&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.